

中番小学校だより

平成29年3月16日

平成28年度学校評価について（報告）

早春の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は、本校教育の推進にご支援とご協力を賜りまことにありがとうございます。

さて、先月に実施しました「学校評価アンケート」についてはご協力を賜り、まことにありがとうございました。皆様からいただいた貴重なご意見を踏まえ、その結果について下記の通りまとめました。また、学校評議員の皆様からもご助言、ご提言もいただきました。

本結果を踏まえ、今後の本校教育に生かしていきたいと考えております。これからもよろしくお願い申し上げます。

記

- I 学校満足度・・・・・・・・・・P1
- II 小中一貫教育・・・・・・・・・・P2
- III 改善の必要がある項目・・・・・・・・P3
- IV その他・・・・・・・・・・P4、P5
- V 学校評議員の皆様から・・・・・・・・P6
- VI 学校評価調査票・・・・・・・・P7、P8
(児童用・保護者用)

○ご覧いただく上での留意点

グラフの評価について

肯定的評価は、

A評価「そう思う」(%)とB評価「どちらかと言えばそう思う」(%)の合計

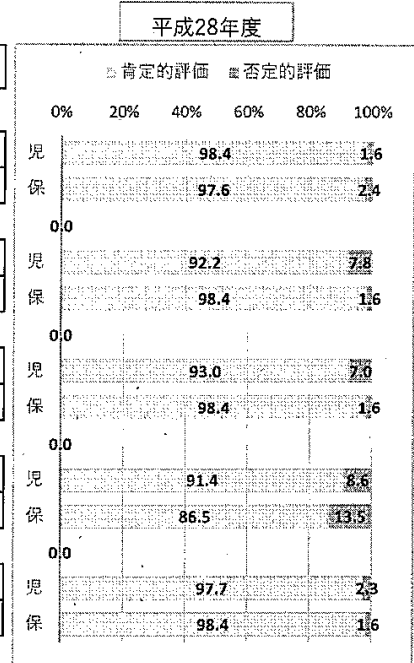
否定的評価は、

C評価「どちらかと言えばそう思わない」(%)とD評価「そう思わない」(%)の合計

となっています。

1 学校満足度

| | | |
|----|-----|--------------------------------|
| 1 | 児童 | 学校へ行くのが楽しい。 |
| | 保護者 | 楽しく学校に通っている。 |
| 2 | 児童 | 夢や目標をもって生活している。 |
| | 保護者 | 子どもの夢や目標を支援し、励ましている。 |
| 3 | 児童 | 自分のよさを知り、「かけがえのない自分」を大切にしている。 |
| | 保護者 | お子さんのよさを認め、自尊感情の高揚に努めている。 |
| 4 | 児童 | 学校の勉強が分かりやすい。 |
| | 保護者 | 授業が分かっている。 |
| 11 | 児童 | 仲間はずれをしないでだれとでも仲よくしている。 |
| | 保護者 | 学校は、仲間づくりや学級づくりを大切と考え、取り組んでいる。 |



1-1 学校満足度

児童にとって、学校は、楽しいもので、安心して自己表現でき、友だちに囲まれて生活できる。そのことは児童の学校満足度には欠かすことができないものと考えています。同時に、その生活に張りを持たせ、積極的な生活へと導いてくれる「夢」や「目標」を持つことが大切であると考えています。

1-2 学校満足度の評価項目とその評価

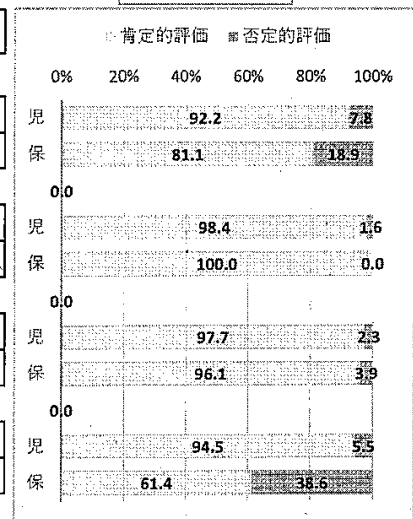
学校満足度については、項目（1、2、3、4、11）から評価しました。その結果は、児童、保護者とも、肯定的評価が90%を超えており、学校満足度については大変良好と考えられます。

しかしながら、「学校へ行くのが楽しい」という項目に一部否定的評価もあることから、その声にもしっかりと耳を傾け、学校が楽しくなかったり、友達と仲良くできていなかったりの原因となる事柄を取り除くとともに、児童に「夢」や「目標」を持つことの大切さを伝え、確認し、それを応援する取組を一層推進していきたいと考えています。

学習の理解度については、90%を超えてはいるものの、授業の理解に不安を持っている児童もいます。児童にとって、授業が理解できる（分かる）ことは、大きな喜びであることはまちがいありません。児童の好奇心を揺さぶる楽しい授業づくり、仲間と学び合う授業づくりをこれからもめざしたいと思います。

II 小中一貫教育

| | | |
|----|-----|-------------------------------------|
| 8 | 児童 | 宿題や自学などの家庭学習を自主的・計画的に行っている。 |
| | 保護者 | 宿題や自学などの家庭学習を自主的・計画的に行っている。 |
| 9 | 児童 | なかよし班活動に進んで参加している。 |
| | 保護者 | 学校は、なかよし班活動等特色のある教育を行っている。 |
| 10 | 児童 | 運動会や中番フェスティバル等楽しく参加している。 |
| | 保護者 | 学校は、運動会や中番フェスティバル等の学校行事を工夫している。 |
| 16 | 児童 | 小中一貫教育として、自立に向けて、自分で考え、判断し、行動している。 |
| | 保護者 | 小中一貫教育を理解し、学校がどんなことに取り組んでいるかを知っている。 |



II-1 小中一貫教育について

今年は、小野市として小中一貫教育に本格的に取り組みました。本校も旭丘中学校、大部小学校、下東条小学校と同じ一つの学校としてスタートしました。特に、小学校段階から中学校段階への段差をできるだけ無くし、小中一貫教育9年間の中の第2期である5年生・6年生・7年生にスポットをあて、「自立」に向けた取組を進めました。

II-2 小中一貫教育の評価項目とその評価

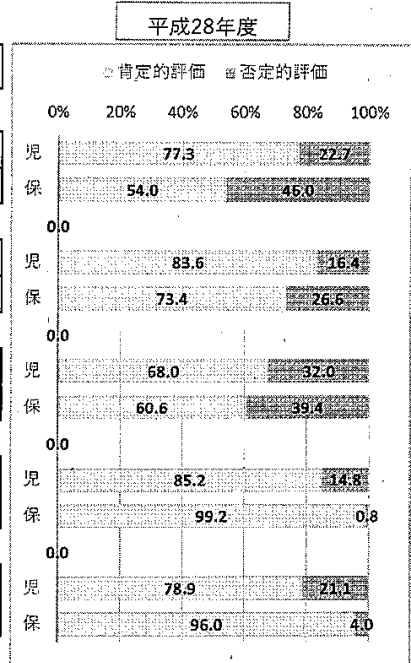
小中一貫教育については、項目(8、9、10、16)から評価しました。家庭学習においては、6年生の家庭学習をより「自主的・計画的」に進められるように、旭丘中学校でも行っている範囲表をもとに自分で学習の計画を立てる実践表の作成やその活用を通して、自主的・計画的な家庭学習が進められるようにしました。また、中学校に近いテスト形式で「定期テスト」を2学期と3学期に実施しました。家庭学習の取組の様子(項目8)は、学校全体でも92%と良好な結果となっています。

「自立」の視点から6年生、5年生には「自分で考え、判断し、決定すること」を求めました。項目16からも、高学年の意識は高いと評価できます。その影響もあるのでしょうか。なかよし班活動(項目9)、運動会、中番フェスティバル等(項目10)の学校行事への参加意識が学校全体でも95%を超えて、児童の参加意欲の高さが分かります。実際の活動での児童の様子からも、高学年が低学年をしっかりとサポートし、自分が引っ張っていかなければならないという自覚がその姿に現れています。6年生、5年生達の「自立」へ向けての確実な一歩が感じられます。

保護者の皆様の小中一貫教育の理解度(項目16)については、61%となっており、課題があると考えています。ただ、学年別に見ると6年生の保護者では80%を超えており、直接的な活動があり、児童を通して見ることができる学年の理解度は高くなる傾向が見られます。今後は小中一貫教育に関する広報の方法や分かりやすく伝える工夫をする必要があると考えています。

III 改善の必要な項目

| | | |
|----|-----|--|
| 14 | 児童 | 家で毎日、読書（新聞を含む）をしている。 |
| | 保護者 | お父さんは、家で、毎日、読書（新聞を含む）をしている。 |
| 15 | 児童 | ゲームやスマホ・パソコンを、1日1時間以内、親のいるところでしている。 |
| | 保護者 | お父さんは、ゲームやスマホ・パソコンなど、1日1時間以内、親の目の届くところでしている。 |
| 22 | 児童 | 1～3年生は午後9時ぐらい、4～6年生は午後9時半ぐらいまでに寝ている。 |
| | 保護者 | お父さんは、1～3年生で午後9時ぐらい、4～6年生で午後9時半ぐらいには寝ている。 |
| 23 | 児童 | ごみを見つけたら拾ったり、トイレのスリッパを揃えたりしている。 |
| | 保護者 | 学校は、校内の美しい環境づくりに取り組んでいる。 |
| 24 | 児童 | 困ったり、悩んだりしたとき、先生に相談している。 |
| | 保護者 | 先生は、子どもの話を聞いてくれる。 |



III-1 改善が必要な項目について

ここでは、肯定的評価が低調あるいは課題があると判断したものを挙げました。特に「読書」（項目14）、「ゲームやスマホ・パソコン」（項目15）、「就寝時刻」（項目22）、「好ましい行動の実践」（項目23）、「困った時、先生に相談」（項目24）の5つについて改善が必要な項目として挙げました。

III-2 改善が必要な項目とその評価

「家で毎日読書をしている」（項目14）については、児童77%という結果でした。読書については、学力・学習状況調査（学テ）において「毎日読書する児童と学力テストでの高得点の児童との相関関係がある」と示されています。読書は、学力との結びつきが強いと考えられます。また、読書の効果については、本は知的財産の宝庫であり、その習得はもちろん、落ち着いて学習する力、豊かな情操が培われるなど、児童の成長と発達に深く関係することが分かっています。読書習慣の確立は、児童の健やかな心の成長に大きな意味があると考えます。

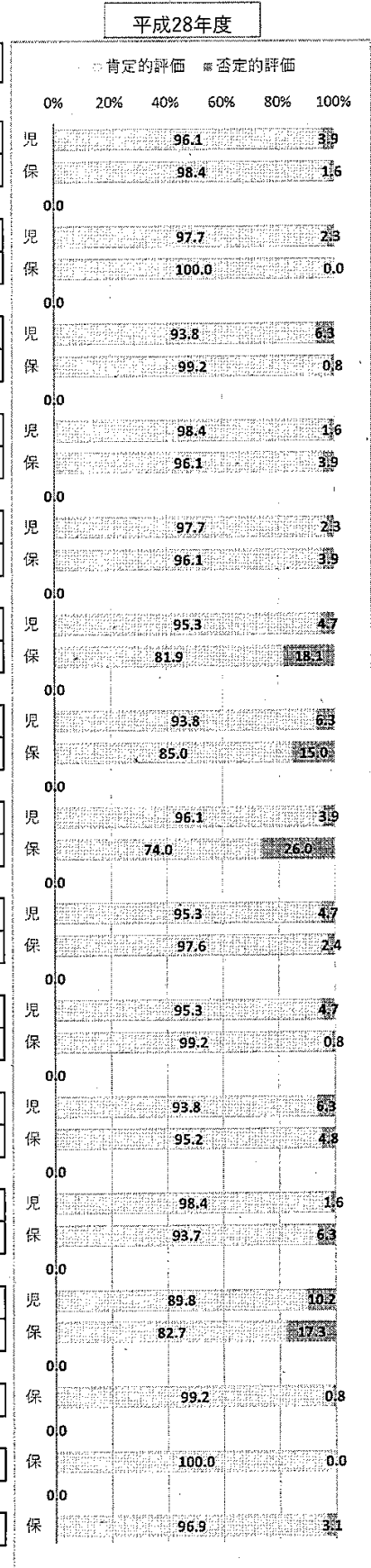
「ゲームやスマホ・パソコンを1日1時間以内、親のいるところでしている」（項目15）については、ゲームやパソコンをする時の約束が守られているか、うまく付き合っているかということです。児童で83%、保護者で73%という結果で課題があります。ゲームやスマホ・パソコンが児童に及ぼす影響についての啓発及び学習は今後も積極的に行っていきたいと考えています。

「就寝時刻の目安について守れているか」（項目22）については、児童68%、保護者60%となっており、まだまだ課題があります。なぜ、この時刻に寝ることができていないのか、その原因を探るとともに自己意識の確立とご家庭の支援と協力の3本柱で取組を進めたいと考えます。健やかな心身の成長にとって必要な睡眠について今後も啓発していきたいと考えます。

「困った時、先生に相談」（項目24）については、児童78%と少し残念な結果となりました。学年別に見てみると、低学年に比べて高学年で低くなる傾向が見られます。先生だけではなく友達への信頼の高まりなどが推測されますが、高学年の困り感の把握に努める必要があると考えており、今後も日々の日記や毎月1回の生活実態アンケート調査を十分に活用し、児童の困っていることの早期発見・早期対応に努めていきます。

IV 「確かな学力等、生きる力の育成」等について

| | | |
|-------------|-----|--|
| 5 | 児童 | 多くの先生（少人数授業、教科担任制）が教えてくれるので分かりやすい。 |
| | 保護者 | 学校は、少人数授業や教科担任制を行い、確かな学力の定着を図ろうとしている。 |
| 6 | 児童 | ゲストティーチャーや地域の方の参加で、楽しく学習ができる。 |
| | 保護者 | 学校は、地域人材の導入、参加体験型学習等、指導方法の工夫・改善を行っている。 |
| 7 | 児童 | 「一人学び」「話し合い活動」などの学習活動を頑張っている。 |
| | 保護者 | 学校は、読む・書く・話す活動を大切にし、表現力（コミュニケーション）を育てている。 |
| 12 | 児童 | 英語活動に楽しく取り組んでいる。また、ICTを使った授業等は分かりやすい。 |
| | 保護者 | 学校は、英語活動・ICTを使った授業等特色のある教育を行っている。 |
| 13 | 児童 | 友達を大切にして生活している。（人の嫌がることをしない・言わないなど） |
| | 保護者 | 学校は、人権学習や体験活動を通して豊かな心を育てようとしている。 |
| 17 | 児童 | 家の人、先生、友だち、近所の人によくあいさつをしている。 |
| | 保護者 | お子さんは、家庭や地域の人によくあいさつができています。 |
| 18 | 児童 | 忘れものがないよう自分で準備や用意をしている。 |
| | 保護者 | お子さんは、忘れ物がないよう自分で準備や用意ができています。 |
| 19 | 児童 | 学校の掃除や係の仕事を頑張っている。 |
| | 保護者 | お子さんは、家で、お手伝いや任せられた仕事を進んでしている。 |
| 20 | 児童 | 健康に過ごせるよう気をつけている。（給食・外遊び・手洗い・うがいなど） |
| | 保護者 | 学校は、運動・食育を通して、体力向上や心身の健康の保持増進に努めている。 |
| 21 | 児童 | 安全な生活ができるよう気をつけている。（登下校・校舎内でのくらし・運動場での遊び方など） |
| | 保護者 | 学校は、避難訓練、登下校指導等、児童の安全確保に努めている。 |
| ＜児童と先生との関係＞ | | |
| 25 | 児童 | 先生は、わたしの良いところを認め、ほめたり励ましたりしてくれる。 |
| | 保護者 | 先生は、子どものよさを認め励ましてくれる。 |
| 26 | 児童 | 先生は、わたしがまちがったことをした時、きちんと注意してくれる。 |
| | 保護者 | 先生は、子どもの間違った行動や行為に対して、保護者と共に解決しようとしている。 |
| ＜児童と保護者の関係＞ | | |
| 27 | 児童 | 学校であったことを家の人によく話している。 |
| | 保護者 | お子さんは、学校のことをよく話してくれる。 |
| ＜学校からの情報発信＞ | | |
| 28 | 保護者 | 学校は、学校だより、学級だより、保健だより等で情報発信している。 |
| 29 | 保護者 | 学校は、参観日やオープンスクールを実施し、広く公開している。 |
| 30 | 保護者 | 学校は、保護者や地域の方の声を生かして、学校づくりを推進している。 |



IV-1 その他の項目について

ここでは、「確かな学力等、生きる力の育成」、「基本的な生活習慣」、「児童と先生の関係」、「児童と保護者との関係」、「学校からの情報発信」について考えます。

IV-2 その他の項目とその評価

「確かな学力等、生きる力の育成」に関する項目（5、6、7、12、13）のいずれをとっても、児童も保護者も100%近い肯定的評価となっており、ふるさと中番が一体となって本校の教育活動が展開され、その中で児童が胸を張って学校生活を送れていると判断できます。

「基本的な生活習慣」に関する項目（17、18、19、20、21）については、児童の100%近い肯定的評価に比べて、項目（17、18、19）について保護者からの評価は厳しいものとなっており、家庭とも連携を進めながら児童の基本的な生活習慣の定着に努める必要があります。「忘れ物がないよう自分で準備や用意をしている」（項目18）については、学習に向かう姿勢の意識付け、「自立」のための基本と考え、学校でも指導しているところです。児童の成長にとって「自分のことが自分でできる」ということは、非常に大切なことです。ご家庭での発達の段階に応じた一層のご支援とご協力をお願いいたします。

「児童と先生の関係」に関する項目（25、26）については、児童、保護者とも大変良好な結果となっています。しかし、先に改善が必要な項目で挙げた「困った時、先生に相談」（項目24）のような面もあり、今後とも児童と先生のゆるぎない信頼関係の構築にさらに努めたいと考えています。

「児童と保護者との関係」（項目27）については、児童89%となっており、児童がお家の方によく話をしていると思われます。当然、児童の年齢により、お家の方と少し距離をおくようなこともあります。今後とも、あたたかな家庭環境とよりよい家族関係を育んでいただきますようお願いしたいと思います。

「学校からの情報発信」（項目28）については、99%と肯定的な結果ではありますが、今後も折に触れ、学校の様子や児童の様子等に加えて小中一貫教育についても家庭、地域に広く周知できるよう広報活動に力を注ぎたいと思います。

V 学校評議員の皆様から

○全体的に肯定的評価が現れていることは大変喜ばしいことあり、学校と地域が力を合わせていることの証だと思えます。

○子ども達が「夢」や「目標」を持ち、日々、学校生活を送っていることは素晴らしいと考えます。自分の将来・未来に向かう中番小学校の子ども達の力強さを感じます。

○中番小学校の子ども達は、非常に素直であり、子どもらしいと感じます。このことは、地域性も影響していると思われます。全ての学年が1学級で有り、人数も20人～30人という環境も大きいのではないかと思います。この特徴は是非大切に続けて欲しいと思えます。

○小中一貫教育については、地域で大きな話題となっている感じはあまりないと思われます。ただ、大きな教育の変化であることは間違いないので、旭丘中学校区としての小中一貫教育のあり方というべきものは、今後も家庭や地域へ分かりやすく示していく必要があると思われます。

○小中一貫教育では、子ども達の成長及び発達を踏まえた学習の方法や仲間づくりの方法、生活スタイルをそれぞれの学校がきちんと認識し、お互いに連携しながら進めていく必要があると思えます。そのためにも学校間の情報共有を密にしながら取り組んでいくことが大切であると思われます。

○子ども達の生活リズムで少し気になるところがあります。些細なことかもしれませんが、「毎朝きちんと起きれること」「しっかりと食事がとれること」「学習にまじめに向かうこと」「体を使って遊ぶこと」「しっかりと眠ること」が大切であると思えます。この生活サイクルのどこか一つでも噛み合わなくなると、どこかに歪みが生じてくるのかもしれない。昔ならこのようなところに注意をしなくともすんでいたことが多かったように思います。しかし、今は技術革新が目覚ましく進み、劇的な生活環境の変化が起こっています。昔は自然にできていたことが、今は難しい時代になったということでしょうか。しかし、ただ、時代の流れということに手をこまねいては健やかなる子どもの成長や発達は望めません。家庭と地域学校がともに手を携え、子どもの成長を支援し、見守る体制を今後も考え続けなくてはならないと思えます。

○中番小学校のこの豊かな地域性を生かしながら、これからの学びの目標である「主体的・対話的で深い学び」の構築に力を入れる必要があります。今、大きな課題となっているグローバル化に伴うコミュニケーション能力の必要性、予想不可能な時代、社会に立ち向かうことができるたくましい人間力の育成、人として優しくあたたかい心や感情の醸成など、この中番小学校でもさらに力を注いでいくことが望まれます。